

アフリカ豚熱防疫体制構築に向けた防疫演習の実施計画

R6.3.1

	農政局	都道府県	1. 都府県での連携体制の検討・構築状況
1	北海道	北海道	-
2	東北	青森県	会議、演習等を通じて庁内関係部局、関係団体及び市町村との連携体制を構築する予定 なお、関係者会議は、2により実施済
3	東北	岩手県	本県では、「食の安全安心関係危機管理対応指針」により、アフリカ豚熱を含む家畜伝染病発生時に、県対策本部、地方支部等を設置することとしている。 また、「岩手県鳥インフルエンザ等発生時対応要領」には、野生いのししにおけるアフリカ豚熱確認時の通報の流れについても整理している。
4	東北	宮城県	強化通知及び令和6年2月7日開催の全国研修会（WEB）を受けて、同月15日本県畜産部局、鳥獣被害部局、環境部局による国内侵入リスク、防疫体制構築、発生時の防疫措置等について情報共有及び検討を実施。
5	東北	秋田県	現在の家畜伝染病発生時に対応する部局に加え、外国人観光客、一般廃棄物処理（いのしし死体処理指導）、森林保全（積極的死体搜索）、都市公園を担当する部局を追加し体制を構築中。
6	東北	山形県	県組織内の防災、林務及び環境（野生動物）の各主務課担当を参集し、協議。
7	東北	福島県	福島県牛豚等特定家畜伝染病対策本部の構成員と発生時の体制等について検討中。
8	関東	茨城県	・庁内関係部署（環境部局、防災・危機管理部、林業、鳥獣対策部署、観光部局）と個別に打合せを実施、発生時の対応や発生予防対策について協力を依頼 ・茨城県猟友会を訪問し、発生時の対応について協力を依頼
9	関東	栃木県	9月6日 防疫措置に必要な対応や、体制やタイムラインの大枠を説明の上、意見交換を実施
10	関東	群馬県	野生鳥獣担当部局（鳥獣被害対策支援センター、農政部技術支援課鳥獣被害対策係、自然環境課野生鳥獣係）とイノシシ搜索・柵の設置を実施する際の連携体制を検討中。 イノシシ死体搜索と柵の設置について、民間業者への委託を検討中 野生イノシシで豚熱発生を想定した防疫演習について、令和6年度実施に向けて県有地の選定を林業関係部局と調整中。
11	関東	埼玉県	アフリカ豚熱の近況、防疫指針、基本方針(案)について、令和6年1月に部内共有し、連携体制案を作成のうえ、他部局や関係団体との検討を進めている。
12	関東	千葉県	3月中に、関係部局との事前打合せを実施予定。
13	関東	東京都	アフリカ豚熱の防疫指針や基本方針について、鳥獣対策担当部局、野生動物担当部局、林務部局等へ個別に情報共有し、理解の醸成を図る。
14	関東	神奈川県	関係団体・関係各課（①観光部局、②林業部局、③公園部局、④野生動物部局、⑤産業廃棄物部局など）に農林水産省消費・安全局長2月2日通知を発出。各課と個別に調整。 関係各課において①SNSなどを通じてインバウンド向け発信、②林業事業者へ注意喚起、③県内指定管理者公園等に注意喚起・ポスター掲示依頼、④発生時の対応検討などを実施。 また、鳥インフルエンザ・豚熱等と同様、危機管理事象として全庁的対応をとれるように調整中。
15	北陸	新潟県	新潟県特定家畜伝染病（口蹄疫、豚熱、アフリカ豚熱）対策要領でアフリカ豚熱発生時の全庁的な連携体制を構築済みで、野生イノシシでの発生時には庁内連絡会議を開催し、各業務班の関係部局で担当の防疫対応に当たる予定。市町村、関係団体等との連携は、既存体制に県猟友会（本部及び支部）を加える。
16	北陸	富山県	2月16日、野生いのししのA S F 対応について家畜保健衛生所と協議 3月に農業技術課、農村振興課、自然保護課、森林政策課と野生いのししの取り扱いについて協議予定
17	北陸	石川県	県のマニュアルはR2年度に作成済み。 R5.10.3に畜産主務課と家保で、野生イノシシでの発生時の国の作成したタイムテーブル及び防疫措置人数たたき台を検討。
18	北陸	福井県	猟友会との打ち合わせ実施。観光部局、森林部局、自然環境部局との連絡調整。
19	関東	山梨県	家畜で伝染病が発生した際の連携体制は構築されているが、野生いのししでの発生は想定されていないため、野生いのししに対応できるよう調整・検討中。 3月14日の会議で連携体制の構築に向けて情報共有を行う。
20	関東	長野県	・令和5年11月21日に机上演習を実施 ・県猟友会及び県鳥獣担当部局に防疫演習の内容を共有
21	東海	岐阜県	・県関係課（林政課、環境生活政策課、農村振興課、都市公園課、観光国際政策課）、県猟友会、森林管理署、森林組合連合会と連携体制構築に向けた打合せを実施。 ・市町村に対して連携体制構築に向けて説明を行い、協力を依頼。 ・連携体制構築の検討のための実地演習を令和5年11月に実施（参加者：七宗森林事務所、七宗町、加茂郡猟友会、可茂農林事務所、中濃家畜保健衛生所等）
22	関東	静岡県	・県庁内担当部局・関係団体等の関連業務及び連絡先を確認した。
23	東海	愛知県	畜産施設における家畜伝染病対策に倣い、県の連携体制を定めた「愛知県野生イノシシアフリカ豚熱対策実施要綱(仮称)」を作成中。「実施要綱」を根拠とし、国の基本方針に沿った防疫活動を円滑に実施するための具体的な内容を掲載した「愛知県版マニュアル」を作成予定。演習等を通じて体制を検証し、ブラッシュアップする。
24	東海	三重県	獣害対策担当課、野生鳥獣保護担当課、森林・林業関係課、ジビエ担当課とアフリカ豚熱が発生した際の対応指針の内容について共有済み。

25	近畿	滋賀県	・県対策会議および地域対策会議構成員（市町含む）、畜産関係団体に対し、アフリカ豚熱の対策強化の取組について情報共有 ・農水部内：必要な対応について情報共有 ・環境担当課：死体処理に係る焼却施設の利用について相談 ・野生鳥獣、森林保全、獣害担当課：山林での死体捜索、死体処理、防護柵等の設置について相談、検討 ・観光振興局、国際課、警察等：外国人や登山者等への発生防止対策の周知について協力依頼
26	近畿	京都府	・関係部局（農政課、農村振興課（野生鳥獣、林野）、産業労働総務課、観光室（観光）、港湾局、海上自衛隊舞鶴地方隊等）に対し、アフリカ豚熱について情報提供するとともに、今後の対応について検討、協力を依頼。 ・産業労働総務課、観光室を通じ、観光施設に対してポスターの掲示等による観光客への情報提供並びに注意喚起を依頼。 ・釜山からの定期航路（貨物船（3便/週））がある舞鶴国際埠頭に対し、韓国船乗組員の靴底消毒の徹底、ポスター掲示を依頼。
27	近畿	大阪府	○狩猟・有害捕獲等関係部局 ・課内野生動物G （全国研修会参加により情報共有し、シミュレーションに参加予定） ・市町村鳥獣担当部局 （庁内の説明後に、防疫説明会にてASFについて周知予定） ○狩猟・有害捕獲等関係部局 ・猟友会 （庁内の説明後に、説明予定） ○林野関係 ・みどり推進室森づくり課 （野生イノシシに対する防疫措置に関し林野での活動に必要な許可や助言等の協力を依頼予定） ○自然公園関係 ・みどり推進室みどり企画課 （府内の野外活動施設等における訪日客対応について協力依頼予定） ○庁内出先機関 ・各農と緑の総合事務所地域政策室 （現地対策本部構成員としての役割分担説明予定（3月中旬）） ○研究機関 ・（地独）大阪府環境農林水産総合研究所 （森林での野生イノシシに対する防疫措置について、森林や野生鳥獣に関する専門的見地から助言及び技術協力依頼）
28	近畿	兵庫県	・県内で、野生いのししへのASF感染が判明した場合は、農場でのCSF・HPAI発生時と同様に「兵庫県特定家畜伝染病対策本部」での対応を想定。 ・農場での発生とは対応が大きく異なる点も多いため、検討チーム（畜産課・家保・自然鳥獣共生課・森林動物研究センター等）の発足を計画。
29	近畿	奈良県	2/16～19 県庁内他部局の環境、林野、観光、防災、交通規制のそれぞれの担当者に、ASF対策について個別説明及び協力依頼
30	近畿	和歌山県	・庁内および出先機関の関係課間でASFの状況等について情報共有。 ・豚熱発生時の対策本部体制を準用し、ASFの庁内体制を構築予定。 ・野生いのしし対応に係る体制は関係部署と検討し、市町村・関係団体等を含めた体制を構築予定
31	中四国	鳥取県	担当者レベルで相談している
32	中四国	島根県	○中国四国ブロック家畜衛生主任者会議を通じ各県取組状況や課題を共有 ○中国地方5県では家畜防疫対策の広域連携協定を締結。発生時の防疫対応について今後具体的な検討が必要
33	中四国	岡山県	県庁農林水産部林政課（森林関係所管）、農村振興課鳥獣害対策室（以下、鳥獣害対策室）、環境文化部自然環境課（野生鳥獣所管）及び猟友会、森林組合、市町村鳥獣害対策窓口との連携体制の構築について検討を開始
34	中四国	広島県	畜産部局が主導となり初動体制の構築に取り組む。 【実施済み】 ①農林局内（局長、部長及び農林総務）でのASFへの取組説明 ②畜産部局を中心にASF防疫演習の実施及び関係部局担当者へのASFの取組説明 【予定】 ③畜産部局を中心に本県の実情に応じた初動対応案の作成及び課題の整理 ④関係部局及び関係者への説明・協力要請及び初動体制整備
35	中四国	山口県	1/23（火）及び1/24（水）、3/6（水）に県庁内の観光部局や野生動物部局及び有害鳥獣対策部局と連携体制に関する打合せを実施（予定含む）
36	中四国	徳島県	「通行の制限・遮断」「消毒ポイントの設置」「死体対応」「積極的死体捜索」「柵の設置」「野生いのししによる鳥獣被害対策」「観光地対応」等について、関係団体の抽出を行っており、今後、当該関係団体や市町村、警察等との連携を構築予定。 最初に緊急連絡網の作成を予定している。
37	中四国	香川県	最終、県畜産課に情報が集約されるよう、市町担当者、県みどり保全課と調整済み。基本的には各市町で死亡イノシシが見つかった際の対応（豚熱を対象とするもの）を準用して対応する予定である。
38	中四国	愛媛県	豚熱経口ワクチン散布開始に合わせて設立した「愛媛県豚熱感染拡大防止対策協議会」の構成員である県、市町、猟友会、畜産協会で役割分担を確認、検討中。
39	中四国	高知県	・捕獲されたいのししの豚熱等検査のための検体採取を県猟友会に委託 ・市町村及び県猟友会に死亡いのししを発見した際、県へ連絡することを依頼 ・死亡いのししが発見された場合、家保、市町村、県猟友会と協力し検査検体の採材や死体処理を実施 ・野生いのししの検査で豚熱等陽性が確認された場合、鳥獣部局、危機管理部局及び公衆衛生部局と情報を共有
40	九州	福岡県	1/28より、県の海外向け観光ウェブサイトにてASF侵入防止のチラシ（韓国語、英語版）を掲載。 2/2の「アフリカ豚熱の発生防止に向けた対策強化について」の通知文を受け、下記関係各所と連携体制について確認を行い、2/9に通知文を発出するとともに対応を依頼。 外国人旅行客対策→県観光局、北九州空港、福岡空港、全市町村 宿泊施設対策→県生活衛生課 野生いのしし対策→経営技術支援課、環境部自然環境課、林業振興課、猟友会 廃棄物の適切な処理→全市町村
41	九州	佐賀県	本県では、以前から家畜伝染病の発生時には全庁体制で対応することとしているところ。 今回の事例についても、関係各課へ情報共有及び役割分担について改めて打合せ等を行い、体制構築を進めている。
42	九州	長崎県	野生いのししにおけるアフリカ豚熱発生時の対応については、防疫指針に基づく対応を記した「長崎県豚熱・アフリカ豚熱防疫マニュアル」を今年度改訂し県内関係機関と共有している。 今後、基本方針（案）の内容を踏まえた内容に改訂、若しくは独立マニュアルの制定を検討している。
43	九州	熊本県	豚熱経口ワクチン協議会（以下「協議会」という。）を令和5年（2023年）10月31日に設立し、さらに、関係機関への説明会等を行い、体制の強化を図っているところ。アフリカ豚熱への対応についても、本協議会を軸に連携体制の構築を行っていく予定。
44	九州	大分県	県庁内関係部局（農林水産部、観光局、広報広聴課、教育庁等）、市町村、畜産関係団体、猟友会及びその他関係機関（海外戦略、観光関係を含む）とアフリカ豚熱の現状や防疫対応方法の共有を行い、連絡体制を構築するとともに、パンフレット設置等の協力を要請。
45	九州	宮崎県	宮崎県豚熱防疫対策本部の野生動物対策班（中山間農業振興室、家畜防疫対策課、自然環境課、衛生管理課）で打ち合わせ会議を開催し、野生いのししにおけるアフリカ豚熱対策について連携体制を検討した。 具体的には、現在の担当に、死体の一般廃棄物処理施設への搬入を見据え、循環社会推進課を加えた体制とすることを確認した。 併せて、3月中旬に県猟友会に対し、本県における野生いのししのアフリカ豚熱対策について説明し、対策への協力を要請する予定。
46	九州	鹿児島県	県豚熱経口ワクチン対策協議会（県・市町村・県猟友会等で構成）を活用して、連携体制の構築を目指している。今後、関係機関・団体と協議していく。
47	沖縄	沖縄県	対策本部連絡会議：関係部局との情報共有、危機管理対策の連携・強化 危機管理対策会議：部内関係各課との情報共有、危機管理対策の連携・強化 防疫協定連携会議：防疫協定団体との情報共有、防疫措置の連携強化 対策会議：市町村、養豚関係団体、市町村等の関係機関との情報共有、連携、侵入防止対策強化

農政局	都道府県	2. 都府県内での関係者会議の実施内容・予定
1 北海道	北海道	-
2 東北	青森県	開催年月日：令和6年2月22日（木） 対 象：庁内関係部局、地域県民局農林水産部、関係団体、市町村 内 容：アフリカ豚熱発生状況、国及び県の防疫対応方針
3 東北	岩手県	和6年2月16日に、危機管理室課及び野生鳥獣関係課を参集し、アフリカ豚熱を巡る情勢、指針及び基本方針（案）に規定される野生いのししでの確認時の対応について共有。 また、令和6年度の防疫演習の実施スケジュールについて検討した。
4 東北	宮城県	鳥獣対策担当会議（令和5年5月12日）、県猟友会支部長会議（令和5年5月26日）、獣種別対策会議（令和5年12月22日）など、県、市町村、狩猟関係者の参集する会議を活用し、アフリカ豚熱の発生状況や今後の対応について情報共有を実施済み。 令和6年度当初に開催する本県の県庁内関係課室による情報連絡会議において情報共有及び発生時の防疫対応について検討予定。
5 東北	秋田県	実施時期：調整中 実施内容： 1. ASFの危機意識の共有 豚：養豚業（地域産業）への被害、 野生いのしし：死体増加による生活環境及び狩猟環境被害） 2. ASF対策の基本事項 水際対策・農場への侵入防止・人や野生いのししを介した拡散防止 3. 野生いのししの防疫措置対応と他の家畜伝染病防疫措置との違い 積極的死体捜索や散逸防止対策などが増える 4. 1～3の対応、防疫演習及び県マニュアル作成への協力依頼
6 東北	山形県	検討中
7 東北	福島県	・県庁内関係部局（環境部局、鳥獣対策部局、林業部局）に対し、発生状況、指針、基本方針（案）の内容等について説明を行い、発生防止に向けた対策について協力依頼を行うとともに発生時の対応について検討した。 ・市町村の鳥獣担当者を対象とした研修会を開催し、その中で注意喚起及び検査の検体提供依頼等を行った。
8 関東	茨城県	開催日時 令和6年2月29日 協議事項 野生いのししにおけるアフリカ豚熱対策について 庁内関係部署を参集し、登山者・キャンパー等への注意喚起や発生時の対応について説明。 参集範囲：家畜保健衛生所、農林事務所、畜産センター、政策企画部（県北振興）、防災・危機管理部（防疫措置）、県民生活環境部（鳥獣対策）、保健医療部（獣医師）、営業戦略部（観光振興）、県警本部（通行制限）、農林水産部農村計画課（鳥獣対策）、林政課（森林関係）。
9 関東	栃木県	10月25日 散逸・侵入防止措置における電気柵設置について実地演習を実施
10 関東	群馬県	・鳥獣被害対策支援センターと担当者会議実施（イノシシ発生時の対応について、死体捜索方法、柵の設置について意見交換） ・森林組合連合会と打合せと担当者会議内での説明実施（イノシシ死体捜索についての協力依頼） ・野生鳥獣担当部局と担当者打合せ実施（猟友会への協力依頼について、防護柵の設置方法について） ・3月上旬に県猟友会への説明と協力依頼を実施予定 ・一部の市町村の猟友会会議内で、ASFについての説明を実施予定
11 関東	埼玉県	・令和6年2月、庁内及び関係団体との打合せ会議を実施 ・令和6年3月以降、随時会議を開催予定
12 関東	千葉県	未定（上記1の状況により検討する。）
13 関東	東京都	アフリカ豚熱の防疫指針や基本方針の情報共有のため、関係者会議を開催。
14 関東	神奈川県	2月13日畜産関係所属長会議において、1の内容を情報共有。また、演習等を含めた今後の方針について説明。
15 北陸	新潟県	アフリカ豚熱の発生状況、国内へのまん延防止対策、指針に基づく国内での発生時の想定対応等について、3月中に会議を開催予定。
16 北陸	富山県	4月に庁内関係部局と打合せ予定
17 北陸	石川県	まずは、R6.3月13日に関係部局の県庁内担当者との会議を開催予定。（その後関係者会議を開催予定。）
18 北陸	福井県	令和6年2月27日 アフリカ豚熱防疫対策会議 参集範囲 観光部局、森林部局、自然環境部局、鳥獣害対策室、農林総合事務所、家畜保健衛生所、市町 実施内容 野生いのししでのアフリカ豚熱発生時対応について確認、協力依頼
19 関東	山梨県	3月14日(木)に関係課を参集し、会議実施予定。 内容：ASFの現状（韓国での発生状況等）、 野生いのししでASF陽性事例が確認された際の対応の確認
20 関東	長野県	・令和6年2月15日に農政部現地機関及び特定家畜伝染病庁内連絡会議構成員を対象とした情報伝達会議（説明会）を実施
21 東海	岐阜県	県関係課との打合せ ○打合せ相手：林政課、環境生活政策課、農村振興課、都市公園課、観光国際政策課の担当者 ○実施日：2/7 又は 2/27 ○内容 ASFの野生いのしし対策の概要について説明し、意見交換を行い、以下の協力を得た。 ・山林の管理状況がわかる地図の提供 ・山林への立入制限、周辺道路の交通制限 ・実地演習場所の候補地の情報提供 ・山道や自然歩道等の交通制限や発生確認前の注意喚起、消毒帯の設置 ・捕獲強化や死体捜索等に関する猟友会との調整 ・県や市が管理する公園等の施設、観光連盟会員の宿泊事業者、及び観光協会への通知やチラシ等による周知 ・海外の個人旅行者や事業者向けのウェブサイトへの外国語での掲載 （その他主な意見等） ・防護服を着ての山中での捜索等の作業は、滑落等のリスクが高まり、安全上問題がある。（林政課） ・慣れない県職員が山中で防護柵等の設置を行うのは、危険を伴い、時間もかかるため、業者に委託するのが妥当。（鳥獣防護柵設置担当者）
22 関東	静岡県	・日付 ： 3月5日（火） ・参集者： 県庁内の担当課（鳥獣保護、有害捕獲、観光、空港、港湾、林業担当部局等） ・内容 ： アフリカ豚熱の発生状況の共有 野生イノシシ感染時の防疫体制の構築と防疫演習時の協力依頼
23 東海	愛知県	・2023年12～2024年2月：関係部局の実務担当者打ち合わせ(畜産防疫、林務、環境、農業普及指導) ※協議結果に基づき、別紙の懸案事項を添付 ・2024年3月：体制案に関する幹部説明 ・2024年4月：体制案に対する県各部局への意見照会 ・2024年4月：県出先機関担当者向けオンライン説明会 ・2024年6月：愛知県豚熱拡散防止対策協議会の通常総会後、アフリカ豚熱対策について説明 ・所属発行のリーフレット(関係機関送付、ウェブ掲載)、インスタグラムアカウント等にアフリカ豚熱対策関連情報を随時掲載
24 東海	三重県	「野生いのししにおけるアフリカ豚熱の浸潤状況の的確な把握と感染拡大防止のための基本方針（案）」へのコメント提出にあたり、関係者との意見交換会を実施している。

25	近畿	滋賀県	2/27、農水部局（家保含む）、野生鳥獣部局、林野部局等で関係者会議を開催し、情報共有 3/14、猟友会と打ち合わせ予定 3/21、危機管理担当者会議において、情報共有を予定
26	近畿	京都府	・2月27日（火）に緊急の関係者会議を開催。 ・アフリカ豚熱の概要、発生予防対策及び発生時の防疫措置等について説明の後、京都府における対策、発生時の防疫対応について協議。 ・本年6～7月頃に予定している防疫演習開催に向け、改めて協力を依頼。
27	近畿	大阪府	参集範囲： ○狩猟有害捕獲等関係部局 ・動物愛護畜産課野生動物G ○家保 ○庁内出先機関 ・各農と緑の総合事務所地域政策室 議題： ・アフリカ豚熱防疫対策概要 ・府内連携体制の構築 ・野生イノシシに対する侵入防止対策及び防疫措置等の検討 ・農場発生時における野生イノシシ対応等の検討
28	近畿	兵庫県	() 内は相手方の所属 2/5（家保）： ・ASF陽性の野生いのしし発見後の防疫措置（死体対応、防護柵等の設置の検討）の検討のために、検討チーム（畜産課・家保・自然鳥獣共生課・森林動物研究センター等）の発足を提案。 2/6（災害対策課）： ・県内で、野生いのししへのASF感染が判明した場合、「兵庫県特定家畜伝染病防疫対策本部」での対応を想定していることを説明。 2/6（自然鳥獣共生課、兵庫県森林動物研究センター）： ・森林での野生いのししに対する防疫措置（死体対応、防護柵等の設置の検討）時に協力を依頼する旨を説明。検討チームへの参画を依頼。 2/8（林務課・治山課・総合農政課）： ・森林/農地等での野生いのししに対する防疫措置（死体対応、防護柵等の設置の検討）時に協力を依頼する旨を説明。 2/8（観光振興課）： ・観光業協会会員の連絡先について提供を依頼。 →リーフレットの配架を手配 2/9（部幹部）： ・他部局に協力を要請するにあたり、部幹部に情報共有。 ・協力依頼の内容について整理。 ・ASF陽性の野生いのしし発見後の防疫措置（死体対応、防護柵等の設置の検討）の検討のために、検討チーム（畜産課・家保・自然鳥獣共生課・森林動物研究センター等）の発足を提案。その他の課題を共有。 2/20（空港政策課）： ・但馬こうのとり空港でのリーフレットの配架を依頼。 ・神戸空港の神戸市役所窓口の紹介を依頼。
29	近畿	奈良県	2/14 部内担当者打合せ（総務、家畜防疫、野生動物） 2/15 庁内連絡会議において、各部局総務担当課長に対してASF対策への協力依頼
30	近畿	和歌山県	2/28（水）ASF対応に係る庁内主要機関を参集し開催 ASFの概要、発生状況および国や他県の取組状況について共有 今後の取組および体制整備に関し協力を依頼
31	中四国	鳥取県	3月中旬に実施予定 内容：アフリカ豚熱について（疾病説明、初動時に必要な防疫措置対応等）
32	中四国	島根県	○2月27日に島根県野生イノシシにおけるアフリカ豚熱防疫演習を実施 （出席者約80名） ○農林水産省、県猟友会、市町、県関係機関とASF発生状況や防疫対応を研修
33	中四国	岡山県	令和6年2月15日（木） アフリカ豚熱検討会議 （参集）県庁内関係部署（林政課、鳥獣害対策室、自然環境課）各課長及び担当者 （内容）アフリカ豚熱の状況及び国内侵入時の具体化案の共有、対応案の協議 協力体制構築に必要な団体等を協議 令和6年3月13日（水） 家畜保健衛生所及び畜産行政部所と検討会議開催予定 内容：アフリカ豚熱発生時の防疫計画策定方針の検討及び机上演習実施スケジュール等の協議
34	中四国	広島県	・ASFの現状共有 ・ASFの初動対応の有効性の認識共有 ・討じこめの課題検討
35	中四国	山口県	開催予定日：3/15（金）予定 出席予定者：県庁内関係部局、関係団体 実施内容：アフリカ豚熱の発生防止に向けた対策について
36	中四国	徳島県	・県の畜産衛生・鳥獣対策・林務・環境・観光部局を集めた会議において、防疫体制構築における課題の抽出と関係団体等の選出を実施 ・上記を踏まえ、市町村や関係団体等を交えた関係者会議を開催予定
37	中四国	香川県	3月中旬に関係各課を集めて ①アフリカ豚熱の概要、②海外の発生状況、③豚熱との対応の違い、④質疑 について会議を実施予定。
38	中四国	愛媛県	役割分担等について、今年度内に実施予定。
39	中四国	高知県	・令和6年2月7日の「野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫措置全国研修会」について、庁内関係部局（危機管理、鳥獣、観光、環境、林野、港湾）、県観光協会、空港における乾底消毒委託業者、 ・今後、野生いのししにおけるアフリカ豚熱の発生予防対策及びまん延防止対策として、必要とされる具体的な対応方法を整理し、庁内関係部局と役割分担を確認する予定
40	九州	福岡県	3月1日実施予定 ・海外におけるアフリカ豚熱発生状況について ・本県の侵入防止対策について ・発生時の防疫対応について <参集範囲> 農林水産部：畜産課、経営技術支援課、林業振興課、各家畜保健衛生所長 他部：保健医療介護部生活衛生課、環境部自然環境課、観光局観光政策課 国：動物検疫所門司支所 福岡空港出張所 関係団体：（一社）福岡県猟友会
41	九州	佐賀県	2月中の会議開催は関係者の調整が困難であったため、関係各課への個別の説明・協議により代替とした。
42	九州	長崎県	野生いのししにおける発生時の県内関係者である市町及び猟友会、県野生鳥獣担当課、森林整備担当課には、侵入リスクが高まっている旨、山林等への立入時の洗浄・消毒の協力について通知文発出済み。 関係者会議は3月8日に開催予定。
43	九州	熊本県	①2/7の全国研修会（以下「研修会」という。）を受け、2/8協議会員の実務者との緊急打合せを行い、今後の連携体制の構築に向けた方向性等について認識を共有。 ②自然保護課、むらづくり課、国際交流政策課、観光政策課、交通政策課、港湾課、各家保、県出先機関、各市町村、関係団体、県猟友会、県内空港事業所、ゴルフ協会、旅館ホテル組合等へアフリカ豚熱の発生防止に向けた対策への協力依頼を通知。 ③今後、必要に応じて、会議（書面開催を含む。）を開催予定。
44	九州	大分県	・2/16：県庁内関係部局で情報共有会議を実施。 ・3/14：全関係部局を対象とした情報共有と旅行者向けの周知依頼を目的とした会議を実施予定。
45	九州	宮崎県	来年度当初に庁内及び市町村の担当者会を開催する予定。
46	九州	鹿児島県	豚熱経口ワクチンに関する説明時に、ASF発生時の対応について情報共有する。R6.3月末からR6年度初めを予定。 R6.3.22に県猟友会役員会に参加し、豚熱経口ワクチン対策とともにASF対策の協議を行う。
47	沖縄	沖縄県	令和6年1月25日、沖縄総合事務局、動物検疫所、県関係機関、市町村、飼料会社、養豚団体、養豚農家等の関係機関を招集し、アフリカ豚熱対策会議を開催した。 【内容】 1 アフリカ豚熱について 2 海外におけるアフリカ豚熱の発生状況について 3 水際対策について 4 飼養衛生管理基準の防疫対策について

農政局	都道府県	3. 担当レベルの対応シミュレーション等の実施状況		
		(1) 必要な対応の整理・検討	(2) 他県での演習事例研究	(3) 発生時シミュレーション
1 北海道	北海道	-	-	-
2 東北	青森県	青森県特定家畜伝染病対策マニュアルにおいて、養豚農場で本病が発生した場合の防疫対応を整理している。	未実施。野生いのししの演習事例を関係部局に提供	未実施
3 東北	岩手県	本県対応要領で、対応者が定められていない、死体対応（～10km）、積極的死体搜索、散逸防止（～3km）等の対応を検討し、本県対応要領の改正を進める必要がある。	2月7日開催の全国研修会資料を参考。本県でも岐阜県同様、山林での対応が求められることに加え、積雪期の対応についても検討していく必要がある。	研修会提供のタイムライン（詳細版）をもとに、野生いのししの確認時の流れを確認。対応者の検討、対応要領の改正作業に合わせ、本県版のタイムスケジュールを作成予定。
4 東北	宮城県	アフリカ豚熱が疑われた場合の防疫作業に関して、作業実施者、作業方法及び発見場所の地権者の許可取りについて課題あり。今後、課題を整理し検討予定。	畜産部局、鳥獣被害部局、環境部局で情報共有済み。	未実施。令和6年度当初に開催する同情報連絡会議及び机上・実地演習をとおして実施予定。
5 東北	秋田県	1. 制限区域の設定 2. 積極的死体搜索 3. 死体処理 4. 観光客、県民への周知（現在より強める） 5. 養豚場への侵入防止	2/7の全国研修会資料を用い、岐阜県、栃木県の資料を参考に防疫措置のイメージを共有 また、今後開催予定である栃木県主催の防疫演習に関する検討会に出席予定。	3（1）の1～3について検討 1. 制限区域は、道路・川・市町村境界等により畜産別で設定。区域内の地権者確認は市町村と法務局に照会予定（調整中）。 2. 積極的死体搜索の拠点は県地域振興局が確保。 死体搜索は山に詳しい人が実施するべき（鳥76の県職員動員とはいかない）。 人員は猟友会や森林組合が主体と想定。ボランティアと人が集まらないので、人夫賃が必要（予算は確保済み）。団体と協定を結んで支払い簡略化。 班編制（搜索班1＋運搬班1or搜索運搬班2のどちらが効率的なのか） 搜索方法はイメージがつかないため、山岳遭難の搜索体制を参考に検討。 3. 死体処理は、検査材料（耳介）を採取後、シートにくるんで山から下ろす。 ○課題 1. 地権者不明場所の搜索方針 ①搜索範囲から外す ②死体だけ回収する ③死体回収と消毒まで実施する のいずれにするのか 2. 死体搜索 班編制、人材候補、経費支払い、搜索方法の検討
6 東北	山形県	各担当ごとに指針、基本方針の読込。	各担当ごとに資料の読込。	県組織内の防災、林務及び環境（野生動物）の各主務課担当を参集し、野生いのししのASF感染が国内既に認められている状況を想定し、野生いのしし死体発見時の連絡体制について、協議。
7 東北	福島県	指針及び基本方針（案）から本県における必要な対応や各課の担当業務について検討を行い、上記1及び2の中で関係部局へ説明を行った。	来年度に本県で実施予定の防疫演習や発生時のシミュレーションの参考とするため、今年度防疫演習を実施した栃木県、長野県に演習を踏まえた課題等について聞き取りを行った。 また、今後開催予定である栃木県主催の防疫演習に関する検討会に出席予定。	庁内関係部局、家保等と発生時のタイムスケジュールに沿って対応を確認するとともに課題の洗い出しを行う予定。
8 関東	茨城県	令和6年2月15日に家畜保健衛生所を参集して実施	令和6年2月15日に家畜保健衛生所を参集して実施	令和6年2月15日に家畜保健衛生所を参集して実施（机上演習）
9 関東	栃木県	必要な対応を整理し、9/6の防疫演習（説明会）に向け体制やタイムラインを検討した。	国によるつくばでのプレ演習（9/26）に参加し、自県での演習の参考とした。	
10 関東	群馬県	・必要となる班編制と人数を検討中 ・必要資材の購入についてリストアップ中	・他県での演習事例を元に、実地演習可能な候補地を選定	検討中
11 関東	埼玉県	・防疫指針、基本方針（案）に基づき、現地対応班の編成や必要人員の整理・検討を進めている。	・令和5年9月、他県の演習に参加（関係課所も含め） ・令和6年2月、全国研修会での事例発表を関係課及び関係団体で共有・検討	・基本方針(案)をもとに、チーム編成や必要人数、対応すべき事項などを想定し、他部局を含め実施体制の構築を進めている。
12 関東	千葉県	現在、検討中。	栃木県主催の研修会に参加後に実施予定だったが、研修会が中止になってしまったので、各県に個別聞き取りを行う等、現在、研究中。	栃木県主催の研修会において情報収集等を行う予定だったが、研修会が中止になってしまったので、現在、検討中。
13 関東	東京都	令和6年2月15日(木)に家畜衛生担当内で打合せ。	令和6年2月7日の会議聴講、会議資料の共有により実施。他県の演習への参加。	令和6年2月15日(木)に家畜衛生担当内で実施。
14 関東	神奈川県	所属毎に2月中に実施。 感染拡大状況、アフリカ豚熱検査から初期対応の流れ、防疫措置の内容について担当者が講師となって説明。	所属毎に2月中に実施。 筑波山での実地演習、栃木県の電気柵敷設演習、イノシシの大量死が与える甚大な環境影響、基本方針（案）について担当者が講師となって説明。	所属毎に2月中に実施 県内の死亡野生いのしし検査においてアフリカ豚熱が陽性となった場合を想定し、連絡先、役割分担の整理を行うとともに、課題抽出を実施。
15 北陸	新潟県	家畜衛生係と危機対策課の担当者で、必要な対応の流れを整理し、対応業務を担当部局について検討した。	令和6年2月7日の会議資料（実地演習）の読み込み。また、開催中止となったが、栃木県の防疫演習に参加して、本県での対応の参考にする予定であった。	野生イノシシのASF発生場所（山間部、山と農村の境界付近、市街地等）に応じた死体探索方法、死体処理方法、必要資材等について検討した。
16 北陸	富山県	R6年度の防疫演習に向けて今後取り組む	課題検討の際に事例として参考にする	R6年度の防疫演習に向けて今後取り組む
17 北陸	石川県	別紙対応フロー、防疫演習（案）を作成。	R5.8月の県境防疫会議で岐阜県の演習について情報交換後、岐阜県の防疫演習実施計画書を参考にし、防疫演習（案）を作成した。	県のマニュアルは作成済みだが実効性に欠けるため、実施できていない。
18 北陸	福井県	実施中	実施中	未実施
19 関東	山梨県	2月に畜産課及び家保とでASF発生時の対応について1回目の打合せを実施。今後、タイムラインを作成するなかで、他部局の協力が必要な項目の整理を行っていく（家保担当レベル）。	研修会で配布された資料を確認し、課題の洗い出しを行う（家保担当レベル）。	シミュレーションをしながら、発生時に必要な対応をまとめたタイムラインを作成中（家保担当レベル）。
20 関東	長野県	・発生時のタイムライン案を作成 ・作業手順書等のマニュアル作成中	・岐阜県の実地演習を参考に、死体搜索、処理班の編成を検討し、県内関係機関に情報共有	・発生時のタイムライン案を作成し、県関係部局と担当レベルで情報共有
21 東海	岐阜県	令和5年11月に実施の実地演習に向けて必要な対応を検討	2/7開催の全国研修会での他県の演習事例の資料や栃木県の防疫演習時の資料等で研究	令和5年11月に実施の実地演習に向けてシミュレーションを実施
22 関東	静岡県	・担当者全員が指針と基本方針（案）の内容を理解し、必要な対応を整理した。	・担当者全員が、他県での演習事例を検討し、静岡県で発生時の対応について話し合った。	・担当者が、発生時の防疫対応を話し合い、対応を整理した。
23 東海	愛知県	・2024年3月以降に実施予定	・2023年11月1日、岐阜県の実地演習に職員を派遣 ・2024年度も、先方に受入の可否を確認し、岐阜県を始めとする他県での演習に職員派遣予定	・机上演習として実施予定
24 東海	三重県	実施中	実施中	実施中

25	近畿	滋賀県	基本方針（案）の概要版を作成。県の家畜衛生・防疫担当（家保含む）、獣害担当、野生鳥獣担当、林野担当において必要となる対応について確認、整理を行った。 主に山林内での積極的死体捜索、死体対応、防護柵等の設置について、必要人員、捜索方法、死体の運搬・処理方法について検討し、課題等の意見出した。	野生いのししにおけるASF防疫措置全国研修会資料（2/7開催）を参考に、本県での実施内容を検討を行った。	平時の準備から発生時（陽性確認時）の動きについて、基本方針（案）をもとに確認した。
26	近畿	京都府	・陽性のしし発見地点から半径3km以内及び外周における防疫対応について、意見交換。 ・基本方針（案）のタイムスケジュールを共有し、関係者で協議。	・関係者会議内で他県の演習事例について共有。 ・演習事例からも3km周辺の防疫措置が問題となることを改めて認識。	・電気柵の設置方法を検討（土地の状況も不明な中で、約18kmの範囲に電気柵を設置することは非常に時間と労力が必要。府職員にはノウハウがなく、また人員も不足していることから、猟友会や森林組合へ委託する想定が必要との意見あり。） ・死体の捜索方法を検討（家畜伝染病発生時のように府職員を多数動員した上での捜索も検討。ただし、素人では周囲に紛れて死体の発見が難しいという意見から、捜索についても猟友会等に協力を依頼することは必須という認識）。 ・山林での通信手段、互いの位置や死亡いのしし発見地点の共有方法を検討（森林調査時等に使用するトランシーバーやアプリが利用可能）。 ・今後、関係者に説明し、協力についての調整が必要。
27	近畿	大阪府	・協力を要する関係機関・団体等のリストアップ ・具体的な役割分担、調整方法等について検討中	・鳥獣担当部局とともに研修会に参加、紹介事例を確認 ・近隣府県と情報交換等実施中	・3/1実施予定
28	近畿	兵庫県	実施済み。 県対応マニュアル（骨子）を作成し、家保に意見照会を実施した。	実施済み。 他県の実績を畜産課内・家保と共有した。	2月に各関係部局に説明を行い、発生時の対応について検討した。
29	近畿	奈良県	2/14 部内担当者打合せ後に指針、基本方針（案）を関係者で情報共有	2/14 部内担当者打合せ後に他県での演習事例等について関係者で情報共有	2/19 県庁内他課への協力依頼後に発生時のシミュレーション作成に着手 （現在作成中）
30	近畿	和歌山県	必要な対応を整理・検討中	演習事例や体制の構築について各府県と情報共有中	今後実施
31	中四国	鳥取県	各自で実施	2月27日に開催された鳥根県防疫演習を視察、2月29日県内家保職員を対象に復命研修を実施	今後実施予定
32	中四国	鳥根県	○2月7日の防疫演習に向け実施済み	○2月7日の野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫措置全国研修会を通じて事例を研究	○県内初発事例での対応シミュレーションを実施済み ○事前検討及び演習を通じて、今後早急に対応すべき課題を洗い出したところ
33	中四国	岡山県	・関係部局の確認（鳥獣害対策室、林政課、自然環境課、市町村） ・協力要請を行う関係団体の確認（猟友会、森林組合等） ・防疫計画のモデル案の策定 ・死体の移動または消毒：発見場所の地権者への対応 ・通行制限：市町村、鳥獣部局、森林部局、警察と協議（関係部局が所管する法的整理が必要。期間及びその根拠） ・移動制限：周知方法、罰則の整理が必要 ・死体の埋設：地権者の同意がえられない場合の対応、地権者を調べるまでに時間がかかるが、それまでの対応 ・防護柵設置：同上。関係法令の法的な整理。 ・22日間の死体捜索にかかる人員：費用の積算及び財源の確認、撤去の費用負担 ・家畜防疫員の対応：人員不足、家保での交差汚染防止 ・市町村との役割分担（市道、林道、登山道） ・死体捜索や上記対策の農林水産省（農政局）の協力依頼及び積極的参加の確認 ・死体捜索及び防護柵による感染イノシシの散逸防止策の有効性に疑問。科学的知見が必要。	動物衛生課の研修会資料等を各家畜保健衛生所へ随時情報提供 他県防疫演習視察を予定（R6）	指針案及び基本方針案に基づく防疫計画を策定するため、畜産関係者と役割や方針を整理する。 防疫計画をもとに、関係部所（林政課、鳥獣害対策室、自然環境課）と対策にかかる協議を行い、連携体制を構築することを次年度検討予定
34	中四国	広島県	実施済み	実施済み	実施済み
35	中四国	山口県	防疫演習に向けて実施予定	2/27（火）鳥根県の「野生イノシシにおけるアフリカ豚熱防疫演習」に参加	防疫演習に向けて実施予定
36	中四国	徳島県	・「消毒ポイント」や「動員計画」など、HPAIやCSF発生時の対応と混同する 言葉があるため、それらとの違いを説明する必要性 ・野生いのししに対しては、すでにCSF対応を実施しているが、これとは異なる 点を明確にし、説明する必要性 （具体的には、「積極的死体捜索」や「柵の設置」等のASF独自の対応について、目的を明確にし、その必要性を理解してもらう）	・200人規模の会場を確保 ・防護柵の設置には経験者（可能な専門業者）の参加が必要 （具体的理由）ワイヤー設置の際の木の保護等は思い至らない ・teamsや無線機（チャット形式）等を活用した、情報伝達に有用な方法の 模索が必要 ・雨天時の対応を考える必要性あり ・入山時には、スパイク付き長靴や登山靴、滑り止めシューズカバーが必要 ・行動記録としてアプリの活用が可能 ・防護服を2枚重ねた着用について検討	・別紙
37	中四国	香川県	県担当課に指針、基本方針（案）を共有し、必要な対応について各課で3月中旬に検討する。	3月中旬に県担当課を集めて、2月7日の研修会資料の共有・動画視聴後に意見交換を実施予定	演習事例の研究に引き続き、発生時のシミュレーションを実施予定。
38	中四国	愛媛県	県での手順、県マニュアル策定等を検討中	資料を用いて共有	資料を用いて共有
39	中四国	高知県	必要資機材のリストアップ及び備蓄強化、観光客（特に登山やキャンプ対象者）への注意喚起、靴底消毒実施への協力依頼等について検討中	栃木県、長野県、岐阜県の事例を研究中	死亡いのししからウイルスを飛散させずに埋める方法を検討中（地元石灰業者との連携）
40	九州	福岡県	3月4日に家畜保健衛生所課長を招集し実施予定	3月4日に野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫措置全国研修会（2/7）の資料を参考に他県（栃木県、長野県、岐阜県）演習事例について実施予定	3月4日に家畜保健衛生所課長を招集し実施予定
41	九州	佐賀県	実施中	実施中	実施中
42	九州	長崎県	2月20日に県野生鳥獣担当者と実施。	2月20日に県野生鳥獣担当者と実施。	2月20日に県野生鳥獣担当者と実施。 シュミレーションをするうえで、岐阜県の演習事例から死体発見地点から3km以内の捜索・死体処理or死体運搬に多くの人員・時間を要することが想定されたことから、実行可能な人材が課題として挙がった。
43	九州	熊本県	研修会で紹介のあった各県でのアフリカ豚熱防疫演習の内容を整理し、今後、本県での対応を検討予定。	研修会で紹介のあった各県でのアフリカ豚熱防疫演習の内容を研究。	農場での発生を想定した県の豚熱・アフリカ豚熱マニュアル（以下「マニュアル」という。）を令和6年度に改訂予定のため、改訂に当たって4④の机上演習の前にシュミレーションを行い、そのシュミレーションを基に机上演習を実施し、マニュアルの改訂に資する。
44	九州	大分県	実施済み。	全国研修会で紹介された事例の研究以外に九州各県で実施予定の研修内容を参考とする予定。	関係機関との調整や連絡方法がある程度確定した段階で実施予定。
45	九州	宮崎県	来年度当初に庁内及び市町村の担当者会を開催する予定。	これまでの演習事例について、配布された資料により研究し、本県での演習実施内容について検討中。	作業マニュアルについて、検討・整備し、担当内で共有する予定。
46	九州	鹿児島県	県畜産課にて必要な対応を整理・検討しているところ。	2月7日に開催された全国研修会に県豚熱経口ワクチン対策協議会の会員をWeb参加させ、各県防疫演習の事例等を情報収集した。	1の連携体制の整備と必要な対応を整理・検討した上で今後実施する予定。
47	沖縄	沖縄県	令和6年2月に自然保護課（環境部局）、宮農支援課（鳥獣対策部局）の担当者へ指針に基づく対応について説明、役割について整理・説明を行った。 令和6年3月に防疫指針、基本方針が改正後、共有を行う予定。	令和6年2月に農水省より開催された野生いのししにおけるアフリカ豚熱防疫措置全国研修会の資料を用いて、演習事例の共有を行った。	1 発生時に備えた体制 2 養豚場での発生時の対応について 3 野生いのししで感染の疑いが生じた場合の対応 4 野生いのししでの陽性判定時の対応 5 渡瀬状況の確認 アフリカ豚熱の概要説明から発生時の対応を含めた上記について、対応の流れを説明。